

8月26日（金）に、タイ王国のバンコクで、ソフトボールの普及活動を行ってきました。

はじめに、泰日協会学校であるバンコク日本人学校に行き、熊手教頭先生にお会いしました。バンコク日本人学校は、小学校・中学校合わせて2,700名を超える子どもたちが通う世界で一番大きな日本人学校です。小学1年生は15クラスもあり、223名の先生が勤務されているマンモス学校です。学校体育での取り組みの参考資料としてNPB（日本野球機構）作成のテキスト（日本語版、英語版）をお渡しして、体育の授業での実態をお聞きしました。日本の文部科学省の学習指導要領に準じたカリキュラムですが、真夏の国のため、生活実態に応じた活動をされているということでした。また、工夫を凝らした取り組みを実践されており、体づくりの一貫としてスポーツ大会も実施されているようです。子どもたちのソフトボールへの興味付けと、意欲向上のひとつになるようにと、NPO法人ソフトボール・ドリームのオリジナルキーホルダーやTシャツを贈呈してきました。そして、体育の授業をはじめ、道徳や総合的な学習の時間に有効活用していただけるよう宇津木理事長の近年の活動を纏めたDVDもお渡ししました。

その後、タイ国日本人会の事務局に伺い、磯田事務局長とお会いしました。その席でも、タイでのソフトボールの普及と振興についてお話ししました。日本人会では、5月から10月にかけて、バンコク日本人学校のグラウンドで、企業や愛好者がチームを結成して、毎週日曜日にリーグ戦を展開されているそうです。チーム数も多く、とても活発にソフトボールに取り組んでいることをお聞きしました。

しかし、常夏のタイでは、暑さを気にせず活動できるスポーツが好まれること、サッカーやムエタイ・ゴルフなどはメディアにも取り上げられテレビ中継も多いが、ソフトボールや野球はニュースになることもほとんど無いこと、玩具売り場におもちゃのバットなども売っているが使い方がわからないこと（殴るものだと思っていることもある）、また、ソフトボールを観戦して、なぜあんな投げ方をするのか、なぜ走らなければならないのかと思うタイ人が多いことなど、初歩の段階での普及が早急に必要であることを教えていただきました。ソフトボール大会に出場しているチームには、子どもたちに普及活動をしているところもあるとお聞きしました。そのような活動に生かしていただければと思い、弊NPO法人ソフトボール・ドリームのTシャツやDVD、キーホルダーなどをお渡ししてきました。

今回のタイ訪問で、東南アジアの普及にはメディアの力を有効活用できる方法を模索し、大がかりな活動をしていく必要性を感じました。タイの人は「新しいものにはすぐにとびつくが、何事にも熱しやすく、冷めやすい。」と教えていただきました。しかし、今回のことが少しでも布石となればと思います。

沖田みどり・佐野仁美